



吉原美智恵議員

行政評価制度の現状と今後は

取り組みを進めて行く

問 行政評価制度は、一層厳しさを増す財政状況の中、施策や事務事業の有効性や効率性を分析して評価し、改善を進めていくうえで、大変重要性を増していると考える。昨年の6月議会で、「外部評価制度の導入を」という一般質問を行ったが、町民参画のまちづくりの

面でも大切なことである。現在どのような状況にあるのか。その仕組みは検討されているか。また、町が実施している文化祭やイベントなどの事務事業等は、随時効果を検証し、見直しを行っている。

答 (山口町長)

本町においては、合併時に事務事業を見直し、更に平成19年度には集中改革プランの策定において、行財政改革審議会委



初めての総合文化祭

員の方々に事務事業及び補助金の見直しを行っていただいた。また、町が実施している文化祭やイベントなどの事務事業等は、随時効果を検証し、見直しを行っている。

外部評価の実施については、委員の構成を学識経験者を中心とした構成にするのか、住民も入れるのか、またどのようなものをどのように評価してもらおうのか等、検討課題が多々ある。現時点で、全国市町村では約4割の自治体があり組んでいる状況であるが、当分の間は、内部的な評価を実施し、必要に応じて外部の方の協力もいただきながら進めていく。将来的には取り組みを進めて行きたいと考えている。

保育所の現状と保育内容の充実は

保育の質の向上を図っていく

問

現在、保育のあり方は、いろいろ検討されているが、各保育所とも全国的に施設が老朽化しており、年齢別の部屋数も確保できない等、改善がなされないまま今日に至っている。

答 (伊澤教育委員長)

正職員の数が限られているため、嘱託や臨時職員の保育士に頼っている現状がある。保育の質の向上や、効果的な運営を図るため、統合を視野に保育所再編を検討している。



楽しい食事タイム

保育内容の充実については、職員の専門研修に力を入れ、保育所間の連携を密にして向上を図っている。

年中、年長の混合のクラスでは、担任の保育士と保育補助士を配置し、それぞれの年齢に応じた活動ができるよう保障している。

また、臨職の方の待遇については、一生懸命保育をしていただいております。悩むところである。何か手だてができればよいと考えている。

また、子どもの数は減少しているが、園の数はそのままであり、効率的な運営、適正な人員配置、保育内容の充実はなされているのか。低年齢の入所が増加する中、職員の負担が一層重くなっている。特に、高くない時間給で働いて